

レポ ー ト



プロフィール	日本国兵庫県淡路島出1999年から有機農業に取り組んでいます	
名 前	笹田美次 男性 1942年生まれ	
所属、及び地位	五色町オ-ガニックファーマーグループ	事務担当
主な活動	①自然と対話して、土と戯れる。自然環境に優しい循環型農業経営(保有農地すべてオ-ガニック認証)	
	②オ-ガニック農法の推進・指導講演・企業従事者の研修受け入れ	
	③オ-ガニック農産物の販売店開設	
	④伝統を継承し、後に続く人に伝える	

今般の経緯 5月に韓国から、今般の関係者が5名が淡路に来られ、洲本市役所農業改良普及所をご案内し、私のほ場を見学して、経営談義、韓国では、鳥インフルエンザの関係上、有機栽培の合鴨農法が全面禁止となり、それに代わる農法と、裏作にも力を注ぎたいと、当方の栽培方法を聞かれた

水稻の紙マルチほ場、アイガモ農法ほ場、玉ねぎの集荷場を見て帰り際、8月に日韓田んぼの生きもの調査交流会を行うので、表裏作の講演をお願いしたいとお話を賜り、今回の機会をいただきました。

8月25日 今までの外国の旅は、添乗員付きで参加してましたが、今回は、関西から1名関東方面から稲葉国光様を含む17名(8団体)計18名、不安でしたが釜山空港で合流し一路会場のホテルへ

8月26日 午前中は 今回唯一の観光、1500年前途絶えた伽耶古墳群の見学、大小の古墳がきれいに整備されており、近い将来世界遺産登録をする方向と説明がありました。

続いて、常に野鳥の飛来する一面ヒシ水面の自然湖(ウポ沼)、当日も鴨をはじめ数種の鳥がいました。

沼を散策しながらトキセンターへ、チャニョン群のトキは、過去に中国の高官が来られた時少女の願いで、番いのトキが贈られ孵化の繰り返しで10余年後の今日313羽まで増鳥されて、来年自然界に放鳥して、コウノトリ農法ならぬトキ農法を推進する計画です

午後15時から、会場に250名が参加し開会セレモニー、チャニョン群の県会議員外要職者が列席の中主催者・両国代表挨拶、日本から稲葉国光さんが代表挨拶、後地区の現状と取り組みについて報告があり歓迎の晩さん会へと進む

8月27日 午前中は、田んぼの生き物調査

日本国ラムネットの 浅野正富様の指導に基づき調査を行い、子供たちの参加もあり生き物の種類によって評点をつけ、化学肥料・農薬散布をしてるかを見極める

1.生物多様性をはぐくむ農法事例発表 韓国事例3人・日本事例2人

私は、私の経営 表・裏作の表題で発表しました・表作は、ヘヤリーベッチ・紙マルチを利用した水稻栽培、裏作は玉葱について問われてましたので、マルチ栽培を、韓国も、今後有機栽培の裏作 玉葱に挑戦したいとのことで発表後も沢山の質問がありました。発表が終わり『ふるさと』独唱には、万雷の拍手をいただき降壇しました
発表後、代表者・参加者から今年12月頃作付け状況を見学したいと申し出がありました

2.絶滅危惧種の保護・復元と生息地準備のための努力

韓国事例3人・日本事例4人の発表がありました

その後討論があり熱が入りすぎて18時30分閉会が20時過ぎに成りました

8月28日 午前中 総合討論 韓国・日本から稲葉さん外代表が出て振り返り討論

昼食後帰路に就く、空港内でフライト時間までウロウロ

今回参加して多くの方と出会い、韓国の方の自然保護に対する意欲……自然・生き物を守るという意欲の凄さ、一旦埋め立てをして農地にした沼を再び元の沼に返し、野鳥の保護を図る計画が進行している

お世話下さったスタッフのロスのない運営、生き物調査での昼食は地元の方で作ってくれました。果物のブドウも参加された農家の方が提供してくれました

言葉の話せない私にも、コンビニへの送り迎え、また何かとお世話下さり帰りにお土産をくれた女性……

12月に来日されたときお返しができるか 心配です

なお、来年韓国でのトキの放鳥も楽しみです、この事業は日韓交互で次回は日本の千葉県で開催予定です